

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 181 号 (2025 年 4 月号)

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
<http://izumichurch.holy.jp/>
発行人 宮地 宏一



私たちの教会がスタートしてから今月で 35 年目に入ります。高松が郷里の初代牧師・町川先生が同郷の方々にイエスさまの愛をお伝えしたいという熱い思いから教会を一から建て上げられたのです。二代目の白石先生も高松出身。そして高松には縁もゆかりもなかった私が三代目として遣わされました。あれから 14 年。高松の素晴らしさを存分に味わい、多くの方々の愛に支えられ、うどんの魅力を熱く語る讃岐人になりつつあります。これからも、よろしくお願いします。



今月も神さまからの恵みが、お一人お一人の上に豊かに注がれますように。

(2025.04.01)

許されていますか！？

「許されて、本当に良かった～！」という経験があるでしょうか。私はパツと思いつきませんでした。生まれてから 45 年、人様にものすごく迷惑をかけたり、大きく道を踏み外すことなく、自分なりに真面目に生きてきたつもりです。だから「許される経験が乏しい」のは当たり前？ではありませんね。振り返ってみますと、私はたくさんの人に迷惑をかけ、言動で傷つけ、悩ませてきたのです。その度に「許された」はずなのに、数知れず「許されてきた」はずなのに「許された経験が乏しい」のは、なぜなのでしょう。



それは自らの過ちを素直に認めず、心から謝っていなかったからです。迷惑をかけても、ことばで失敗しても、いつも言い訳をし、相手のせいにしてしまったことが何と多かったとか。「あの人のせいで、こうなってしまった」「こんなことを言われなかったら、あんなことを言わなかったのに」こんな風に思っているのだから心の底から「ごめんなさい」と謝れない。仮に許されても、自分が悪いと認めていないので、許された実感が湧かなかったのです。

では、もし自分が 100%悪かったら、何も言い訳できるような状況でなかったら、素直に謝れるのでしょうか。残念ながら、謝れません。どうするのでしょうか？逃げるか、開き直るかの二択ですね。しかし、これでは何の解決にもなりません。ずっと過ちを引きずって生きることになるのです。大切なのは、自らの過ちを素直に認め、相手に許してもらうこと。

親になって気づかされたのは、親は子どもが謝ってくる前に、すでに許しているということです。親は子どもの「ごめんなさい」という一言が聞きたいのです。でも子どもたちは自分の非を認めて謝ろうとしません（私もそうでした…）。謝ったら負けであるかのように頑なになるのです。親は許したいし、もう許しているのに、その許しをそのまま受け入れようとしない頑固な子どもたち。

これは子どもだけの問題ではありません。私たちも「許される」ことを拒んでしまうことがあるからです。「許される」ためには、相手よりも低くなる必要があります。

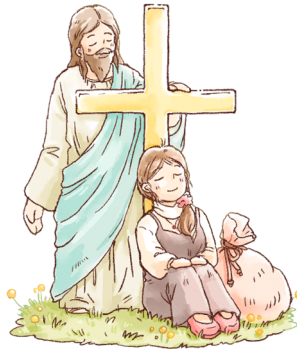




でも私たちは低くなりたくありません。常に相手よりも上にあり、**有利な立場**でありたいのです。ですから私たちは謝ることができません。「許される」ことを拒んでしまうのです。

聖書の中でイエスさまに近づき、イエスさまの赦しを素直に受け入れているのは、いずれも**低く小さくされた**人たちです。罪深い生活から抜け出せない人、罪人と後ろ指をさされている人、病気の人、大きな過ちを犯した人。そんな弱さを抱える彼らをイエスさまは責めず、見捨てず、大きな愛で包んでくださるのです。このイエスさまの大きな愛によって、彼らの**心と身体は癒され**、イエスさまの赦しの豊かさを味わい、喜びで満たされます。

一方、真面目で正しく生きていると自負していた人たちは、イエスさまに近づかず、**拒絶します**。それだけでなく全く罪のないイエスさまを不当な裁判によって十字架刑に処するので。これに対し、イエスさまは何一つ抵抗されず、**自ら**十字架に向かわれます。そして十字架の苦しみの中で、次のように祈られるのです。



しかも彼らが「あ～なんて悪いことをしたんだ」と自らの過ちを認める前に、イエスさまは彼らを**赦すために**十字架で死なれました。さらにイエスさまは十字架で死なれただけでなく、三日目に死から**よみがえられた**のです。私たちの一番の恐れである死に勝利されました。このイエスさまの復活を覚え、記念するのが**イースター**です。

さて今から約 2000 年前、イエスさまが十字架の上でささげられた祈り、またイエスさまの十字架の死と復活は、私たちと**無関係ではない**のです。確かに、私たちがイエスさまを実際に十字架にかけたわけではありません。またイエスさまが自分のために死んでくださ

らなければ赦されないほどの悪いことをしたかと問われたら、何も思い当たらないと**反発したくなる**ことでしょう。

けれど聖書には、自己中心に生きることが**罪**だと書かれてあります。自分のことしか考えられないから、私たちは他の人とぶつかるのです。自分さえ良ければと思っているから、苦しみ・悩みが次から次へと襲ってきます。どんなに年を重ねても、「**自分さえ**」という思いから、なかなか抜け出せないのです。いいえ。抜け出そうという考えさえ浮かばない。私もそうです。

そんな私たちのためにイエスさまは今も「**父よ、〇〇をお赦しください**」と祈ってくさっています。この祈りに「イエスさま、あなたの赦しを感謝します」と応答し、**へりくだって**自らの罪を認め、イエスさまの赦しを受け入れるなら、私たちはイエスさまの大きな愛に包まれます。そしてイエスさまの豊かな赦しを味わい、真の**平安**が与えられるのです。

父よ、彼らをお赦しください。

彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。

彼らは自分たちが救い主であり、神の子であるイエスさまを殺すという、**あり得ないほど**大きな過ちを犯していることに気づいていませんでした。そんな無知で高慢な彼らをイエスさまは**見捨てられなかった**のです。



- **礼 拝** 毎週日曜日 10 : 30～12 : 00
- **イズミン・キッズ** 毎週日曜日 9 : 30～10 : 20
- **おやこ de えほん** 毎週水曜日 10 : 30～12 : 00

* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。

